

令和元年度第2回三重県地域医療対策協議会 会議概要

- 日 時 令和元年11月11日（月）17:00～18:30
- 場 所 JA三重ビル5階大会議室
- 出席者 駒田委員（会長）、竹田委員（副会長）、新保委員、森委員、藤井委員、三田委員、小薮委員、須崎委員、相田委員、一宮委員、諸岡委員、楠田委員、武内委員、片山委員、霜坂委員、住田委員、西宮委員、亀井委員、大畑委員、秋山委員、山下委員、福井委員、二井参考人

□ 概 要

1 医師派遣検討部会について

- (1) 医師少数スポットの設定について
- (2) キャリア形成プログラムの改訂について

<質疑等>

○医師少数スポットに派遣する医師は、どういう診療科を想定しているのか。

→医師不足県であり、専門研修のシーリングでみたときに多いとされた診療科が無かったことなどを踏まえて、地域枠等医師の方について、すべての診療科を選べる形で進めていきたいと考えている。

⇒医学部地域枠B推薦地域以外の人口10万人未満の市町の医師少数スポットについては、12月中旬に公表予定の平成30年度医師・歯科医師・薬剤師調査の結果をみてこれまでの意見を勘案したうえで次回に決定することとし、その他は原案のとおり了承された。

- (3) 地域枠医師等のキャリア支援（派遣調整）について

⇒各委員から異議はなく、原案のとおり了承された。

2 三重県医師確保計画の策定について

- (1) 三重県医師確保計画（中間案）について
- (2) 令和元年度 第1回三重県医療審議会周産期医療部会、令和元年度 第1回三重県小児医療懇話会の結果について

<質疑等>

○三重県では東京などに比べて産科医が少なく、医師の働き方改革が進むと周産期医療の仕組みが崩壊するのではないかと心配している。

○小児科については、夜間救急を地域の医師会が担っているが、地域の開業医が高齢化してきており、数年後には医師会で担えなくなるのことも有り得る。

○医師確保計画の中で強い意気込みを示してほしい。

→各診療科とも充足しているわけではなく、働き方改革や医療の高度化などいろいろな状況を踏まえると、まずは三重県に残る医師を増やしていくということになる。地域枠の設定や修学資金制度などにより、とにかく三重県にいてもらって良い研修を受けられるようにすることが一番大きいのではないかと考えている。

⇒各委員から異議はなく、原案のとおり了承された。

3 ヘき地医療拠点病院の指定について

⇒各委員から異議はなく、原案のとおり了承された。

以上